

Momoyama Volunteer Express MOVE

September 20, 2018
Vol.
39



わたしたちが、ボランティアを選んだ理由。

「ボランティアなんでしてるん？ 自分の時間に使いたくない？」

「ボランティアしてるって、えらいね！ 真面目なんやね！」

「ボランティアって就活に有利やからやってるの？」

「ボランティアって偽善者っぽいから、なんか苦手…。」

「ボランティア？ オレ(私)には関係ないことやわ…。」

「ボランティアしてるって周りに言うの、恥ずかしくない？」

「ボランティアしてるんや。ゴミ拾いだけやってて楽しい？」

「ボランティアって結局ようわからんわ…。」

この言葉、実際にボランティア活動をしている桃大生が、ボランティア経験のない人から言われたことのある言葉です。ボランティアと聞くと、真面目で堅苦しそうなイメージがある人、自分とは別世界のように感じる人が多いようです。そんな人達の多くは、ボランティアって、どんな活動をしているか知らないことが多いのが現実です。

ボランティアが真面目で堅苦しいだけだったら、4年間続けることはできません！ では、6人の桃大生は、なぜ学生生活にボランティアを選んだのでしょうか。ボランティアにあまり興味のない人も、6人の言葉のなかに学生生活のヒントがあるかも?! 『児童文化研究会オズ』とボランティアスタッフ、通称『ボラスタ』のインタビュー、是非読んでみてください。



01 ボランティアで、学ぶことができた。



宮本 凌佑さん
(社会学科3回生)

高校までは運動部に所属していましたが、友人がボランティア系の部活で充実している姿を見て、僕は桃大でボランティア活動をする決めました。そのときに会ったのが、子ども達の前で手遊びや人形劇、紙芝居をしている『児童文化研究会オズ』という部活。2回生から部長をしています。



はじめは子どもとの接し方がわからないときも。そこで、先輩の技を見て盗むことにしました。膝を曲げて子どもと視線を合わせて話しているな、いつもより少し高い声で話しているな、とにかく笑顔が大事だな。それを実践していると、徐々に子ども達との接し方がわかって

きました。「ありがとう!」、「楽しかった!」の声が、僕のやる気につながっています。数十名の親子の前で披露することも多く、人前で話す度胸もつきました。

部長になって思うことが、仲間の大切さです。後輩に教える際、特にそれを感じます。当時の僕のように、先輩の子ども達への対応を見て、接し方を覚えてほしい気持ちもあります。ただ、それだけではなかなか上達しません。同じ学年の仲間はもちろん、後輩にも意見をもらいながら、どういった工夫をすれば手遊び・人形劇・紙芝居がうまくなるか、また、どうすれば子どもとの接し方・遊ぶ力を伸ばすことができるか、チームとなって部員全員で話し合い、活動することの大切さを知ることができました。



このように、ボランティア活動から色々なことを学べていると実感しています。ただ、学べる部分は本当に人それぞれで、違う部分で成長を感じているメンバーもいます。桃大生の皆さんにも、まず1回ボランティア活動をしてほしいです。



ボランティア活動が合わないと思ったら他の活動にチャレンジできるのも、大学生だからこそできることです。これからもチームワークを大事に、少しでも子ども達の笑顔が増えるような活動をしていきたいと思っています。

02 ボランティアで、変わることができた。



上野 翼さん
(経営学部2回生)

高校時代からボランティアをしたい気持ちはありましたが、勉強や部活が忙しくできずじまい……。だから、時間に余裕ができる大学生になったらボランティアをしようと決めていました。ボランティアは少ない人数で細々と活動するイメージでしたが、ボラスタは集団で活動できると知り、入ることを即決しました。

もともと人見知りだった僕はコミュニケーション能力を向上させたいという思いがありました。普通に生活しているだけでは、なかなか色々な世代の人と深く関わることはできませんが、ボランティアではそれが可能です。活動を重ねていくうちに、



自然と人見知りも改善できました。子どもの対応方法も先輩が丁寧に教えてくれ、また、先輩の対応を見て学ぶ部分も非常に多いです。ボランティアがキッカケで、僕は変わることができました。

ボランティア活動の1番の思い出は、大阪マラソンのボランティア。僕たちの担当はゴールまで残り3kmの地点。ランナーの皆さんが1番キツイポイントです。そこで、ランナーとして走っていたタレントさんが僕たちのメガホンを使って、「ボランティアの方々の力で皆さんは走れています。ランナーの皆さん、ボランティアの皆さんに感謝して走りましょう!」と言ってくれたことを鮮明に覚えています。ランナーに勇気を与えようと思っていた僕たちが勇気をもらうことを想像しておらず、とても感動しました。

僕は、中学の先生から聞いた「感謝の気持ちがあればサボれない」という言葉を大事にしています。桃大で勉強できているのは、親の支えがあるから。講義をサボることもできますが、親への感謝の気持ちがあるので、入学してから1度も大学を休んでいません。勉強ができる機会も、勉強で後悔することも、きっと大学が最後。皆さんも支えてくれていてる方への感謝の気持ちを忘れず、大学生活を過ごしてほしいです。



03 ボランティアで、恩返ししたい。



小山 葉月さん
(法学部2回生)

私の地元は鳥取県。小さい頃から田舎特有の地域の輪があり、色々な世代の人に育てていただき、今があると思っています。「その中にいた大学生のお姉さんのような存在になりたい!」そう思ってボラスタに入りました。活動の中でも、地域の子供達との関わりが強いイベントには予定が合えば必ず参加しています。住む地域は変わりましたが、地域の子供達に恩返しをしたい気持ちが強いです。



日本だけでなく、海外でボランティアをしたいなあ…と漠然と思っていたときに見つけたのが、桃大の『インド異文化ボランティア体験セミナー』。私とマザー・テレサ

の誕生日がたまたま同じというだけで親近感を抱き、10年以上前からマザーハウスの施設でご高齢の方や子供達と関わりたいと思っていた私にピッタリの活動でした。「ボランティアは雑用かもしれないけど、それをいかに楽しくやるかが大事」という言葉が印象に残っています。



地元の鳥取県では、伝統芸能の『因幡の傘踊り』をお祭りで披露していたこともあり、桃大では『よさこい連〜真輝〜』にも入り、定期的に地域のイベントに参加しています。依頼があって、演舞する。これもボランティアの要素がありますよね。こういった日本の伝統文化に触れることが好きな私は、小さい頃から相撲も大好き。応援している相撲部屋の力士を追いかけている『スー女』でもあります。



「思い立ったらすぐ行動!」私が心がけていることです。高校のときは韓国語を学びたい、韓国人の友人を作りたいと思って勉強し、韓国のホームステイを2回経験。たくさんの友人ができました。海外に行くことで日本の伝統文化の良さに改めて気付かされることもあります。大学でもやりたい!と思ったことは、すべて実現させています。皆さんも大学生活の中で、やりたいと思ったことは躊躇せず始めてみてください。そこから新しい世界が広がると思いますよ。

04 ボランティアで、夢を発見した。



田中 多聞さん
(経済学部2回生)

「色々な経験をするぞ!」それが桃大に入学するときに立てた僕の目標。その中のひとつがボラスタの活動です。たくさんのボランティアに参加しましたが、そのなかでも印象に残っているのは、昨年参加した熊本地震の復興支援ボランティアです。メディアを見ても、今は熊本地震について取り上げられることはほとんどありません。ただ、熊本でも復興していない地域がまだまだあります。



メディアで取り上げられないからといって、復興したわけじゃない。そのことを周りの友人にも伝えています。

昨年の夏休みには約10日間、1回生限定のタイでの異文化体験プログラムにも参加しました。

異文化に触れたことで、海外の良い部分、海外に行ったからこそわかる日本の良い部分を知るきっかけになりました。「後輩達にも、この体験から色々学んでほしい!」そう思って、先輩としてアドバイスする『メンター』として、先月同じプログラムに参加しました。勉強する立場から後輩を指導する立場となって参加することで、これから自分が成長させるべき部分を知ることができました。



僕は将来、旅行会社で働き、地元の香川県の魅力をもっと知ってもらおうという夢があります。ボランティアを始めて「人のためにになりたい」という気持ちが強くなったことが、夢につながりました。僕は昔から旅行を趣味にしていたのですが、旅行に行くことより、旅行のプランを立て、周りの友人が喜んでくれることが好きだと気がきました。自分が頑張ることで、みんなに笑顔になってもらいたい。その思いはボランティア活動で、間違いなく強くなりました。

ボランティア活動をしたことがない皆さんへ。秋学期にまず1回、ボランティア活動に参加してみてください。そこで、「ボランティアが楽しい!」と思ったら、是非友人に伝えてください。それが桃大で広がっていき、ボランティア仲間が増えることを願っています。



05 ボランティアで、実現できた。



南田 奈央さん
(社会学科1回生)

高校のときからボランティア活動に興味はあったけど、1人で参加することは勇気が出ず…。だから、大学に入ったらボランティアをしよう!と決めていました。大学を選ぶ際も色々な大学のボランティアサークルのSNSを見ていて、1番活動が充実していたのが、ボラスタの活動。「めっちゃ楽しそう! ボラスタに入るぞ!」と思ったのが、桃大に入学したキッカケです。

たくさんあるボランティア活動の中でも1番参加したかったのは、『さかいまつり大パレード』のボランティア。西洋時代の衣装を着たボラスタの先輩が笑顔でパレードしている様子をSNSで見て、私も来年この衣装を着てパレードに参加したいと思っていました。衣装合わせも先月終わり、来月開催されるパレードで、ついに私の夢が叶うのが楽しみです。

初めてのボランティア活動のとき、子どもとうまく接することができるか不安だった私。先輩に「ずっと笑顔で子ども達と接してるの、いい感じだよ!」と言われたときは、本当に嬉しかったです。また、ボラスタのみなさんも活動するごとに仲良くなることができています。ボランティア活動



ばかりするのか?とも思っていたけど、みんなとバーベキューに行くこともあり、さらに仲を深めることができています。ボランティア初心者の人でも全く問題なく活動できるし、1カ月以上前にボランティアの予定がわかるので、参加できるものはすべて参加しています。

ボランティア活動を始めてまだ半年。小さい子ども達は言葉も通じないこともあるけど、自分が心を開いたら、笑顔で話しかけてくれることを学びました。まだ



少し緊張しながら活動しているときもあるけど、楽しみながらボランティア活動ができています。また、自分の趣味につながりそうなものにもチャレンジしようと思い、写真部と料理サークルにも入っています。これからの大学生活も、楽しみでいっぱいです!

06 ボランティアで、充実させたい。



中島 好汰さん
(社会学科1回生)

桃大への入学が決まった後、「大学に入ったらボランティア活動がやってみたい!」と思っていました。ただ、当時の僕はボランティアといっても、高齢の方のお手伝いや、ゴミ拾いぐらいしか思い浮かびませんでした。そこで、桃大のボランティアサークルや部活をSNSで探していたところ、楽しく活動していて、活動数も多いと感じたのがボラスタでした。…って、上に掲載されている南田さんも、同じことを思っていたんですね(笑)

ボラスタの活動をしながら、『よさこい連〜真輝〜』で演舞もしたいと思っていたら、前のページでお話されている先輩の



小山さんが両立していると知ってひと安心。よさこいでも楽しく演舞できています。よさこいの踊りは、思っていたよりハードです。振り付けを覚えることも難しいですが、それよりも笑顔を見せながら踊るところに苦労しています。

ボラスタの活動は楽しすぎて、まだ遊びの延長線の感覚で参加している部分もありますが、色々な体験ができていると実感しています。夏休みには子ども達の宿題を見るボランティアにも参加でき、徐々にではありますが、子ども達との接し方もわかってきました。

秋学期のボランティアの中で楽しみにしているのは、大阪マラソンのボランティア。ランナーの皆さんを勇気づけたいと思っています。短期留学も考えていますが、ボラスタで短期留学を経験している先輩もたくさんいるので、事前

に何をしておけばいいか色々相談できるので心強いです。

僕は兵庫県朝来市出身。卒業後は地元に戻り、朝来市の良いところを伝える仕事に就きたいと思っています。広告で様々な情報を伝える講義や、地域活性化の講義を受講でき、授業も思った以上に楽しいです。これからも勉強を頑張りながら、ボランティアやよさこいの活動で、学生生活を充実させたいです。

